

令和 4 年度 学校評価 報告書

令和 5 年 4 月

聖徳大学三田幼稚園

I、本園の教育目標

「いつもにこにこ元気な子ども」

- 1、健康でたくましい子どもに
- 2、だれとでも仲よくできる子どもに
- 3、しっかりと約束の守れる子どもに
- 4、あいさつのできる子どもに
- 5、自分で考えて行動のとれる子どもに

II、本園の自己評価の状況

◎目標を上回る ○目標に達する △目標に届かない

	評価項目	結果	取り組み状況
			○よくできている ×課題
1	幼稚園の運営について	◎	○職員会議の実施及び情報の共有、コロナ禍の中新しいや方に取り組んで行った。 ×新園舎での運営(不慣れな環境、今までのやり方が可能かなど)
2	保育の在り方、幼児への対応	◎	○研究保育の経験を生かし、子ども主体の保育が行われた。絵画、製作などの表現活動が活発に行われた。 ×体を動かす遊びを計画的に取り入れる。
3	保育者としての資質・良識・適性	◎	○基本的な点を含め、一人ひとりが考え仕事に取り組んでいる。 ×教材や教具の管理、点検など整理整頓をし、無駄な出費を減らす。
4	保護者への対応・守秘義務	◎	○対面での面談の実施を通して、保護者の話を丁寧に聞くことを常に心がけた。月1回のクラスだよりも発行できた。 ×秘密情報やクレーム対応など再度統一できているか考え実施する。
5	地域の自然や社会とのかかわり	○	○卒園生の小学校にアンケート調査を実施し、幼保小の接続の取り組みについて把握し保育を見直した。 ×園外保育や地域交流活動の実施を取り入れる。
6	保育者の専門性に関する研究・研究への意欲・態度	◎	○七園研究保育を通して、園内研究会を定期的に行い、指導法に関する研究を推進した。 ×外部の研修の参加
7	地域における子育て支援	◎	○にこにこひろばの実施方法の検討をし、在園児と活動できるように工夫した。 ×利用者が求める地域の子育てのニーズを取り込み、子育て支援事業につなげる

IV、保護者評価の状況

◎目標を上回る ○目標に達する △目標に届かない

評価項目	結果	内 容
お子様について	◎	・コロナ禍ではあるが、マスクも任意で着用となり子ども達も表情が見えてよかった。特に子ども主体の保育になり、描いたり、作ったりすることを楽しむことができたのは満点に近かった。
園の運営について		・野菜の栽培やザリガニ等を飼うなど取り組んできたが、自然とのふれあいの不足が課題である。ボランティア活動の導入が好評である。
家庭との連携について		・今年は保育参観、表現あそびなど保育を見る機会が増えた。にこにこまつりでは父母の会の幹事とえぷろんぱぱが物品販売、テイクアウトフード、ゲームを行ったのは保護者にも評価がよかった。

V、総合的な評価結果

評価	理 由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価・保護者評価共に良い評価である。 ・コロナも落ち着き、子ども達もマスクなしの生活になったことで、表情が伝わりやすくなってきた。また、表現あそびではクラスごとに役、大道具や小道具など子ども主体で取り組んできたことで、保護者の満足度が高く直接多くの賛意を聞くことができた。 ・戸外の運動あそびの経験がやや少なかったため、新園舎になり戸外あそびを取り入れていきたい。また、園外保育も計画的に導いていきたい。

A・十分に成果があった B・成果があった C・少し成果があった D・成果がなかった

VI、今後取り組む課題

	課 題	具体的な取り組み方法
1	・地域の自然や社会とのかかわりについて	・子ども達が自然にかかわれるように園内の自然とのふれあいを工夫し、園外保育を多く実施する。また、地域の社会についても保幼小連携を積極的にかかわりをもつ。

VII、学校関係者評価委員の評価・・・全員の方から全項目「A」の評価をいただいた

・現在行っている教育や運営は、目標が十分に達成されており高く評価する

*全日本私立幼稚園幼児教育研究機構発行 「私立幼稚園のための学校評価ハンドブック」参照